

— 足元および2024年度の市場環境をどうみますか。

「素形材事業の売上高では半導体製造装置用鑄鋼品で昨年終盤から需要低下の影響が出始めた。1〜3月期以降、24年度上期は底ばい状態が続くだろう。大型建機用鑄鋼品の売上高は1〜3月期も堅調だが、来期は建機メーカーの生産計画の後ろずれの影響を受ける見通しだ。2分野以外の鑄造品が素形材事業の4割強を占めるが、いずれも需要低下の波を受けている。今の感触では素形材事業の来期売上高は1〜2割減少する見込みだ」

— エンジニアリング事業はどうですか。

「高速道路補修、モノレール増設などの案件もあり、今期は売上・受注高とも好調で、期末受注残高は高位になる。人手不足に伴う工事の遅れも受注残増加の一

日本鑄造 鷺尾 勝社長



性の向上』に取り組んだ。があるが、走行式1基に集約する。大物造型職場のミキサーを更新し、中小物造型職場の動線解析、設備稼働型職場にはミキサーのアー状況の見える化、自動押湯ムを180度回転し砂を供給する。1台に集約する砂型3Dプリンタ、溶接補とで鑄物砂や硬化剤の管理修ロボット、現場帳票入力も効率化できる。投資額はシステムなど、いずれも1億円強だ」

「福山製造所では24年度取り組みだ。一定の成果は下期に低周波誘導溶解炉2上がっているが、今後も計画通り、あるいは計画以上のスピードで進ちよく度を高めていく必要がある」

素形材・エンジニア部門の生産性向上

因で、来期売上高は今期並最高になる」

「高速道路補修、モノレール増設などの案件もあり、今期は売上・受注高とも好調で、期末受注残高は高位になる。人手不足に伴う工事の遅れも受注残増加の一

「生産性向上へ新たな投資案件は。11月までに（金枠に鑄物砂を充填する）造型用ミキサーを更新する。現在は大物造型用の走行式1基と中小物造型用の固定式1基

「素形材、エンジニアリ」

「今年度までの3カ年中期計画でデジタル化、IoT化が進んだ印象です。」

「池上工場（JFEスチール東日本製鉄所京浜地区内）の閉鎖に伴い、

「川崎、福山で新たな投資」

一部工程を川崎工場に移設しました。

「ごみ焼却炉用の耐熱ライナー（火格子）などOEM調達品を全数検査した上で出荷している。この検査場を川崎に移し、専用ラックを設けて作業効率を向上している。スペースは池上時代の約半分になっており、25年には自動保管搬送システム化も実施する」

「ガスバランス方式を採用し、CO₂排出量ゼロに相当する鑄造品「GREEN CASTING（グリーンキャスト）」を商品化した。今月販売を開始しました。鑄造業界では先陣を切る取り組みです。」

「社員に慣れてもらった」

「サステナブルな企業であり続けるためにCO₂排出削減に取り組み、第三者認証も取得した。この実績があったので、将来のグリーン市場形成を想定して1番手で商品化することにし

「低熱膨張合金材料」

「LEX」の3Dプリンタ製品の用途開拓は。

「半導体製造装置用部品を中心に国内外でサンプル出荷を行っている。お客さまの求める特性に合わせた熱膨張率の最適化や複雑形状の特性を生かして可能性を高まっている。ガスアトマイズ法と3D造形技術を組み合わせた製品開発にも成功している」

「とこで昨年社内でも「鷺尾の部屋」を始めたところですが。」

（谷山 恵三）